

昭和48年1月13日第3種郵便認可HSK通巻494号

発行/北海道障害者団体定期刊行物協会

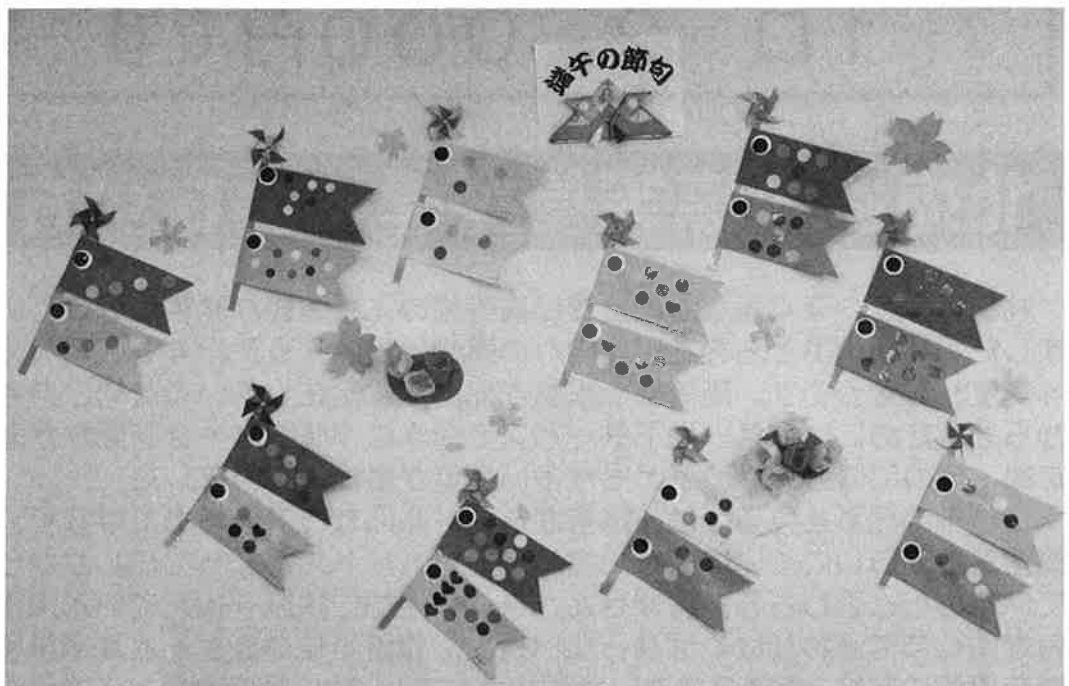
発行日/2013年5月10日(毎月10日発行)1部50円(会費を含む)

編集/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光

会報/200

2013. 5月号

ほまみ



生活介護で創作活動中に作った作品こいのほりです!

白老町手をつなぐ育成会

後援会費をよろしく

早いものです、新しい年度が始まりゴールデンウィークも通り過ぎ5月も半ばを過ぎました。それにしても北海道は寒いです。いまだにストーブは必需品です。白老は、この頃やっと桜が咲き始めました。

今回、例年のごとく後援会費の振込用紙が入っていますが、すでに何年分か前納された方、50年分と言って一生分納入して下さった方、会報が勝手に届いている方、すでに支払い済みの方は振込用紙を廃棄して下さい。毎年、番号を金額と勘違いする方もいらっしゃいますので、金額は自分で書き込むようになっていきますので間違わないで下さい。

後援会費は
1口 2,000円です

北海道の高等養護学校の在り方

札幌市手をつなぐ育成会の会報に高等部の入選問題が記事になっていました。札幌の子どもの札幌市内への進学状況は、57、4%（平成24年度）だそうです。高等部の配置が北西部に偏在しているため、自宅から通うためにはバス→地下鉄→バスで通学に1時間半～2時間かかるため、自力では通えない子どもが多い事等が書かれていました。

これらの記事を見る度に、障害がハードルになっているのではなく、障害者が暮らしにくい環境が障害者に重いハードルとなつてのしかかっているのだと思わざるを得ません。身体や知的に課題を抱えている障害者が遠くまで通わなければならない現実。養護学校のほとんどが通学困難な場所にあり、寄宿舎住まいが要求されています。『障害があるから!』小さな時から親元を離れることが求められるのです。市町村の就学指導委員会が『養護学校相当』という判定を出したとき、出された親子は新しい荷物を背負うのです。『全ての子どもが歩いて通える学校に!』という当たり前の願いが実現するのはもう少し先のようにです。

フロンティア農園開墾中

茨城県の動物繁殖研究所から寄贈された飛生の土地ですが、入り口の笹を刈りゲートを作りました。そんなものは作りたくなかったのですが、地元の人から「笹を刈ってきれいにしたら、ゴミを捨てられるよ」というご意見をいただいたからです。笹を刈ってみると笹藪の中からテレビ等の大型ゴミから小さなゴミまでたくさん出てきました。とても残念です。



上の写真は農園の開墾風景です。もともと草地だったせいあまり木はないのですが、それでも面積が9,000坪ですので、1年や2年フロンティアで使う燃料ができそうです。加藤さんが仕事が休みの日にチェーンソーで木を切ってくれています。今年は三分の一位でやめて、また来年切ってもらおうと思っています。

もう少ししたら、ここにハマナスとハスカップを植えようと思っています。昨年募集しましたハマナスですが、フロンティアまでもう一度声をかけて下さい。よろしくお願いします。

もう少ししたら、ここにハマナスとハスカップを植えようと思っています。昨年募集しましたハマナスですが、フロンティアまでもう一度声をかけて下さい。よろしくお願いします。

おおうば百合の成長

アイヌ民族が主食にしていたおおうば百合ですが、球根から採った一番粉（アイヌの人達は薬にしていた）を材料の一部にしたフィナンシェ『福来のゆりかご』が（株）希松の東京工場の竣工式に使っていただきました。大量の注文でしたので、急ぎよ型も注文し、量産に対応するとともに、箱も鹿缶との共有でしたので、ラッピングも含め見直すことにしました。フロンティアの卵は、黄身がシュークリーム、白身はフィナンシェに変身するのです。

おおうば百合は白老に適した植物の一つで、白老の各地で群生地を見つけることができます。

鹿にとっては花も球根も貴重な食糧になっているようです。食べ物がなくなった初冬や早春に足で掘って球根を食べ、初夏に白いきれいな花を食べています。町内に何カ所か群生地を作り、町民や観光客が花を楽し

めたらと思いますので、ゆっくりと整備していきます。



障害のある人やその家族が、どのような障害福祉サービスを選択して利用したいのか相談したいときの公的なサポートとして、「相談支援事業」がある。昨年4月の法改正で、介護保険制度

の「ケアプラン」に類似する「サービス等利用計画」づくりに関与するよう定められ、障害福祉施策の中でも重要な役割を担う。制度の仕組みと課題をQ & A形式でまとめた。(弓場敬夫)

障害福祉サービス「相談支援事業」

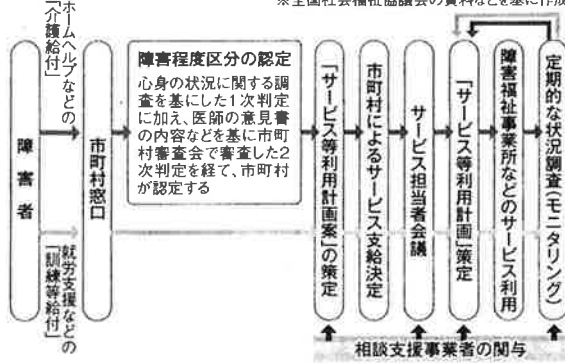
障害者・児に対する主な相談支援事業

※厚生労働省ウェブサイトなどを参考に作成

	窓口	内容
障害福祉サービスなどの利用計画策定	市町村または市町村が定めた事業者	障害者・児に対して、どのような障害福祉サービスが必要かなどを検討し、関係機関と調整した上で「サービス等利用計画」を作成し、支給決定後には実態を調査(モニタリング)して計画の見直しを行う
地域生活への移行と定着に向けた支援	道が定めた事業者	入所施設や病院にいる障害者が地域社会で生活を送るために、住宅の確保や連絡体制づくりに関わる
一般的な相談支援	市町村、市町村や道が定めた事業者	福祉サービスを受けるための情報提供や当事者同士によるカウンセリング、専門機関の紹介など

障害福祉サービス決定の過程と相談支援事業者の関わり

※全国社会福祉協議会の資料などを基に作成



適切な利用計画作成

Q 障害者・児を対象とした相談支援事業とは。

A 主に①障害者・児にどのような福祉サービスが必要かを検討して「サービス等利用計画」をつくり、利用開始後には実態を調査

定期的の実態調査も

(モニタリング)する②入所施設や病院にいる障害者が、地域で生活を送るための計画づくりや調整をする③福祉サービスに関する情報提供など一般的な相談に応じるが柱となっている。

Q 「サービス等利用計画」について具体的に教えてください。

A 介護保険制度では、「ケアマネジャーが「要介護」や「要支援」の認定を受けた人の相談を受け、どのようなケアプランを作成してケアプランを利用する。サービス等利用計

道内わずか205事業所▶増設が急務

「画」は、障害福祉サービスにおけるケアプランに相当する。このため、ホームヘルプや生活介護、自立訓練、就労支援など多岐にわたるサービスをどう利用するかを検討し、さらに医療機関との連携や、介護保険制度が利用できる障害者についてはケアマネジャーとの連携を図ることもある。

Q すべての障害者に「サービス等利用計画」が必要となるのか。 A 国は、2014年度までにすべての障害者について作成することを求めている。しかし、道内には障害福祉サービス利用者が約5万人いるのに対し、相談支援事業所は今年4月1日現在で205カ所にすぎない。道内の専門員数に関するデータはないが、1事業所で1〜3人程度のところが多いため、多く見ても千人に満たないとみられる。これでは全障害者について「計画案」から「モニタリング」までをカバーするのはかなり難しい。相談支援が実効あるものになるためには、相談支援にあたる事業所と専門員を増やすことが急務だ。

ふろんていあ♡メール
Frontier

就労支援施設
フロンティア♡MAIL

2013年5月号

〒059-0922
白老町萩野310-110
TEL・FAX0144-83-3537



焼きたてのパン工房 CHALLENGE

障害を持つ人たちが働く就労支援事業所フロンティアのアンテナショップ茶連慈の一角にあるパン工房を紹介します。

茶連慈は平成17年に開設したフロンティアに近接して、平成22年8月にオープンした直営の軽食・喫茶店及び自家製ケーキ等の売店。

パン工房の正式名称はまだないが、「焼きたてのパン工房 CHALLENGE」と書かれている。

朝の忙しい時間も終わって少し静かな雰囲気。15畳くらいの小さな厨房。3人が仕事に励んでいる。

(記者) : おはようございます。今日は、ふろんていあメールの取材に伺いました。よろしくお願ひします。

「一同」 : どうぞ! はい、なんなりと! (元気な声が返ってくる。……安心。)

(記者) : このパン工房のリーダーは斎藤さんですか?

「田川・大廻」 : 斎藤さんです! (ここでは、皆名前呼び合っている。)

(記者) : 斎藤さん、現在の職名はなんですか? 工場長ですか?

「斎藤」 : パン屋さんです。…… (笑ひ)



ベテランのパン職人斎藤英司さん : (65歳、札幌のパークホテルから始まり、最終は苫小牧のグランドホテルニュー王子に勤務された長年パンづくりを志してきたベテラン。昨年の5月からフロンティアのパンづくりを手伝う。引き継いできたレシピを改良して人気のお菓子「ふくろろのフィナンシェ」を作る。)

(記者) : 最初は昨年の5月にフロンティアの菓子厨房の隅を間借りしてパンづくりの準備を開始しましたね。設備のない中でのパンづくり、9月に茶連慈に引っ越しをするなど大変でしたね。6月のパン売り出し当初からお客さんがついてくれたりして人気がありましたが、今のメニューはどのくらいですか? (ザーっと水道の音)

「斎藤」 : 34ほどですね。

(記者) : 今の一番人気は何ですか?

「斎藤」 : カルツォーネですね?

「大廻」 : ミルクパンです。(二人の思ひは少し違う。)

(記者) : 私の仲間うちでは食パンもフランスパンも旨いと好評ですが、自信のパンは?

「斎藤」 : 自信はまだまだ。今はどれだけお客さんに喜んでもらえるかが一番。もっと良くしたい。(業者さんが来所してインタビューは終わり。ひかえめで研究熱心、努力の人という感じを受ける。)



フロンティア一年生の田川みゆきさん : (33歳、一児のママさんです。4月末からフロンティアの短期のアルバイトでいろいろな部署を体験し、6月から採用が内定。パンづくり1カ月。)

(記者) : 他の部署も体験してからパンに来ましたけれどパンづくりは how ですか?

「田川」 : 楽しいですね。まさかパンを担当させてもらえるとは思っていませんでした。続けていきたいです。

(記者) : 田川さんの仕事は、利用者の職業指導をしながら生活支援などもあり大変な仕事ですが、どうですか?

「田川」 : 今は覚えなければならないことが多くて、逆に教えてもらわなければならない立場なので少しずつしっかりやっていきたいと思ひます。

(記者) : 今はどんな仕事を?

「田川」 : 成形と、焼き上がったパンを店に並べたりとか。

(記者) : 生地の仕込みは?

「田川」 : それはまだ。大廻君ですね。



(記者) : ところで焼きたてのパンを食べましたか？
「田川」 : 食べました！本当においしいですね。冷めたパンとはまた一味ちがいますね。
(記者) : どのパンが好きですか？
「田川」 : 私はカルツォーネ。フォカッチャのチーズも大好きです。
(記者) : 将来、斎藤さんの後を任せられることになると思いますが、どんなパン屋さんにしたいですか？
「田川」 : 声をかけ、地域の人に誰にでも愛されるパン屋にしたいです。
(記者) : 今はどんな声掛けをしていますか？
「田川」 : まず「いらっしゃいませ！こんにちは！」です。ほんとは「このパンはこうで、美味しいですよ。」って自分が自信を持って説明したりして声かけをしたいのですが、……（これから先の努力が楽しみ、爽やかな感じを受ける。）



手先が器用な大廻真裕君：(20歳、パンづくり11ヵ月、フロンティア2年生。今年から利用者本人の会の副会長ときょうされん北海道支部の支部運営委員を務める。ときどき通信ほほえみの表紙のカットを描いている。)

(記者) : パンづくりはいつからしていますか？
「大廻」 : 去年の6月からです。
(記者) : パンづくりは最初どんな仕事から始めましたか？
「大廻」 : うーん、覚えていません。 . . .

(記者) : 今年は、本人の会の副会長ときょうされん北海道支部の支部運営委員に選ばれ大変ご苦労様です。頑張ってください。

「大廻」 : はい。(ひょうきんな方だが、今日は少し元気がでないよう。)

●翌日再び訪問。佐藤君も来ている。(チョココルネの成形をしている。)

(記者) : 大廻君、昨日はとも、チョココルネは、人気があるようですがいつからですか？

「大廻」 : 3月ごろからです。

(記者) : 成形は少し難しいようですが？

「大廻」 : うまくできるようになりました。(大廻君は器用そう。)

店内と厨房から一斉に「ありがとうございました。」の声が上がる。お客様のお帰りです。



継続は力の佐藤昌義君：(20歳、パンづくり11ヵ月、春鷄を1年間経験しパンづくりに挑戦。フロンティア2年生。昨年から利用者本人の会の会長とし、社会福祉法人ホープの評議員を務めている。)

(記者) : 金曜日から風邪をひいて昨日はお休みでしたが、今日はどうですか？

「佐藤」 : まあまあです。

(記者) : パンづくりはどうですか？

「佐藤」 : 面白い！続けていきたいです。

(記者) : 一般就労を目指していると聞いていますが？

「佐藤」 : できればパンづくりの経験を活かした仕事をしたいです。また高齢者の介護などの仕事もしてみたいです。

(記者) : 趣味は何ですか？

「佐藤」 : ワンピースのフィギアを集めること。スポーツです。

(記者) : 利用者本人の会の会長の仕事はどうですか？

「佐藤」 : 中学も高校も会長の経験がなく、初めてで実際やってみると荷が重いですね。

(記者) : 今年はどんな風にしていきたいですか？

「佐藤」 : コミュニケーションをとれるような会にしたいです。難しいことではなく会話のできる会にしたいです。

(何事にも積極的に将来が楽しみな好青年という感じを受ける。ここだけの話だが、只今筋トレと？キロのダイエットに挑戦し継続している有言実行型？の青年)



(記者) : 新作のパンを一口ごちそうになり、少し希望の持てる取材だったが、お邪魔しました。茶連慈のみなさんこれからも頑張ってください。



ほほえみ200号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
2013年5月10日発行(毎月10日発行)
H S K通巻番号494号 1部50円
編集/〒059-0922

北海道白老郡白老町字萩野310-110
白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光
Tel 0144-83-3537

発行/〒063-0868

札幌市西区八軒8条東5丁目4-18
北海道障害者団体定期刊行物協会
細川久美子 (Tel 011-736-1724)
